

安曇野・大北地域の高等学校を考える合同部会

報 告

[目 次]

| | |
|----------------------------|------|
| 安曇野・大北地域の高等学校を考える合同部会 開催要綱 | 2 p |
| 安曇野・大北地域の高等学校考える合同部会 構成員 | 3 p |
| 開催概要 | |
| (1) 第1回会議 | 4 p |
| (2) 第2回会議 | 6 p |
| (3) 第3回会議 | 10 p |
| 報告（まとめ） | 11 p |

令和3年5月14日（金）

安曇野・大北地域の高等学校を考える合同部会 開催要綱

1 目的

- (1) 隣接する安曇野地区と旧第 12 通学区の高校のあり方を併せて検討する。
- (2) 隣接する地域にある 3 校の専門高校について、活力ある専門教育のあり方を広域的・多角的に検討する。
- (3) 検討内容を「旧第 11 通学区高等学校教育懇話会」及び「大北地域における高等学校を考える協議会」にそれぞれ報告する。

2 構成員

この合同部会は、「旧第 11 通学区高等学校教育懇話会」及び「大北地域における高等学校を考える協議会」それぞれの構成員から選出された以下の役職者等により構成する。

- ・市町村教育長
- ・産業界の代表
- ・中学校長会の代表
- ・高等学校長会の代表
- ・その他地域の実情に応じた者

3 運営

- (1) 合同部会は、構成員から座長及び副座長を選出するものとする。
- (2) 座長は、合同部会を招集し、主宰する。
- (3) 副座長は、座長を補佐し、座長に事故あるときはその職務を代理する。
- (4) 座長は、必要に応じて、会議に構成員以外の者の出席を求めることができる。
- (5) その他、合同部会の運営に関して必要な事項は、座長が別に定める。

4 事務局

合同部会の運営のために、「旧第 11 通学区高等学校教育懇話会研究部会Ⅲ事務局（安曇野市・生坂村教育委員会）」、「大北地域における高等学校を考える協議会事務局」及び「県教育委員会事務局」により合同部会合同事務局を設置する。

5 開催期間及び構成員の任期

合同部会の開催期間及び構成員の任期は、「旧第 11 通学区高等学校教育懇話会」及び「大北地域における高等学校を考える協議会」に報告する内容を決するまでとする。

6 議事等の公開

会議は原則公開とするが、座長の判断により一部非公開とすることができる。

附 則

この要綱は令和 3 年 3 月 11 日より適用する。

安曇野・大北地域の高等学校考える合同部会 構成員

(敬称略) ◎座長 ○副座長

| 旧第 11 通学区高等学校教育懇話会〔研究部会Ⅲ（安曇野）の構成員〕 | | |
|------------------------------------|---------|---|
| 1 | 橋渡 勝也 | 安曇野市教育長 |
| 2 | 樋口 雄一 | 生坂村教育長 |
| 3 | 千國 茂 | J Aあづみ 組合長 |
| 4 | 平林 正吉 | 松本機械金属工業会長 |
| 5 | 降幡 真 | 長野県建設業協会安曇野支部長 |
| 6 | 高橋 秀生 | 安曇野市商工会会長 |
| 7 | 出水 雄二 | 安曇野市P T A連合会会長 [R 2年度] 前安曇野市P T A連合会会長 [R 3年度] |
| 8 | 内川 雅信 | 安曇野市中学校長会長（三郷中学校長）[R 2年度] 豊科北中学校長 [R 3年度] |
| 9 | 保坂美代子 | 高等学校長会・豊科高等学校長 |
| 10 | 荒井英治郎 ◎ | 信州大学教職員センター准教授（座長）12 区協議会構成員 |

| 大北地域における高等学校の将来を考える協議会 | | |
|------------------------|---------|---------------------------------|
| 1 | 荒井今朝一 ○ | 大町市教育長 |
| 2 | 竹内 延彦 | 池田町教育長 |
| 3 | 須沢 和彦 | 松川村教育長 |
| 4 | 平林 豊 | 白馬村教育長 |
| 5 | 山田 光美 | 小谷村教育長 [R 2年度] |
| | 関 芳明 | 小谷村教育長 [R 3年度] |
| 6 | 坂中 正男 | 大町商工会議所会頭 |
| 7 | 矢崎 昭和 | 池田町商工会長 |
| 8 | 内川 輝雄 | 松川村商工会長 |
| 9 | 吉澤 清 | 北安曇郡・大町市小中学校長会長（大町西小学校）[R 2年度] |
| | 木下 政道 | 北安曇郡・大町市小中学校長会長（大町第一中学校）[R 3年度] |
| 10 | 横川 秀明 | 元大町高等学校長 |

開催概要

| | |
|--|--|
| 第1回会議 | 日時：令和3年3月11日(木) 午後4時～6時 場所：安曇野市穂高会館 第1・2会議室 |
| 1 開 会 2 開催の経緯及び趣旨の説明 3 自己紹介 4 座長、副座長の選任 5 会議事項 (1) 県教育委員会による資料説明 (2) 懇話会・協議会からの説明 ・第11通学区高等学校教育懇話会 研究部会Ⅲ（安曇野） ・大北地域における高等学校を考える協議会各事務局 (3) 意見交換 (4) その他 次回（第2回）令和3年4月26日(月) 午前10時～12時 大町市 6 閉 会 【配布資料】 ・次第表紙に綴じたもの（構成員名簿、開催要綱（案）） ・座席配置図 ・県教育委員会作成 資料集 ・スライド資料 ・各地区からの資料 | |
| 【論点整理等】 ・会議マネジメントの改善 ・公立と私立の関係のあり方 ・総合技術高校の概要説明（制度の特徴、教育課程の内容、キャリア教育の状況） ・県内の先行事例の資料提供等の必要性 | |

（県教委による「総合技術高校」等の説明）

- 2021年度における当該地区の募集学級数は、明科3、豊科5、南安曇農業3、穂高商業3、池田工業3、大町岳陽5、白馬2の合計24学級である。
- 旧11通学区、旧12通学区を合わせた2035年の中学卒業予定者数は、来年度新入生の約74.8%の見込みである。
- この割合で当該地区の2035年の募集学級数の計を算出すると、約18学級程度となる。
- 仮に各校の募集学級数を予測すると7校のうち5校が2学級分の募集、残り2校が4学級分の募集となり、規模の大きさを生かし切磋琢磨する都市部存立校が両地区には配置できない可能性が生じる。
- 総合技術高校とは、「複数の専門学科が配置されて、各専門学科の独立性、専門性を同時に保ちながら、専門学科の枠を超えた学習が可能」な高校を指す。「学科の枠を超える」とは、他学科の科目履修、共通履修科目の設置が可能であることを指す。

○平成20年の長野県産業教育審議会の答申では、技術革新や産業構造の変化に対応した異なる学科との連携や融合の必要性から、新しいタイプの専門高校として総合技術高校が示された。平成27年の答申では、総合技術高校は、変化の激しい社会情勢における望ましい産業構造の方向性に合致する高校とされ、新時代の産業人材の育成を目指す規模を生かした産業教育の拠点校として位置付けられている。

○想定される総合技術高校のあり方としては、1つの学校の中で単科の農業高校、工業高校、商業高校と同様の専門性を担保した形態が考えられる。また、福祉、介護医療等の科目など、新たな分野を加えた地域の産業人材を総合的に輩出していく形も発展的には考えられる。

○総合技術高校の県内の先行事例としては、①須坂創成高等学校、②佐久平総合技術高等学校、③飯田OIDE長姫高等学校がある。

総合技術高校とは(本県の位置づけ)

- 複数の専門学科が配置されている高校
- 学科の枠を超えた学習
 - 他学科の科目を履修
 - 共通履修科目を設置

農業科 商業科 工業科
総合技術高校 ≠ 総合学科

多様な選択科目から各自が時間割を作成

21

「総合技術高校の設置等」の必要性

新しい時代は「分野の連携」が必要な時代

専門教育の維持・充実

- 長野県産業教育審議会
 - ⇒ H20答申「異なる学科との連携や融合の必要性」「総合技術高校が考えられる」
 - ⇒ H27答申「総合技術高校は、変化の激しい社会情勢における望ましい産業教育の方向性に合致」「設置する方策を考える必要」

時代マッチ

24

総合技術高校 まとめ

新しい時代にマッチした学びの展開を期待

- ・ 分野が融合し、連携した学習
 - 教科横断 学科間連携
 - 新設する学習 ⇒ 着目する学習
 - オーバーラップ的な学び
- ・ 探究的な学び(課題研究)の充実
- ・ 規模の大きさを活かした学び・部活動などが実現

3校の課題

- ・ 学科間連携を更に進めること
- ・ 総合技術高校で学ぶ意義やねらいへの理解
- ・ 学科連携を進めるための環境整備

30

総合技術高校のイメージ(例)

地域人材育成 自然 SDGs 地域課題 観光資源 地域が学びの場

総合技術高校

行政 高等教育機関 観光資源 地域企業 地域人材 小中学校

31

(意見の概要)

(A)

○農業は農業分野で徹底し、工業は工業の中でどういう観点で生きていくのを見定めた中で、しっかりと教育をもっていかないといけない。

(B)

○少子化傾向の認識、高校再編の理念、方向性については基本的に異論はない。ただ、統合した場合に、その高校がどのように整備されていくのが極めて重要である。

○高校がないという地域はこれから少子高齢化が加速し、疲弊していくことになり、長野県全体の力が相対的に落ちていくことを危惧している。高校を統合するならば、地域バランス、地域の未来を考えた設置の場所の検討を丁寧に進めていただきたい。

(C)

- 農業は、農業のプロパー、専門を育成することは大切だが、専門教育の中にオーバーラップした商業や工業の連携を推進していくことが重要になることは間違いない。農業高校を出たからといって農業を営む時代ではない。多様な生徒が多様な科目を通じて将来設計をしていく時間を提供していく意味で総合技術高校が大事である。
- 生徒の自主的活動はスケールメリットが大きい。高校の人数が多くなるために目が届かなくなるというデメリットはあるかもしれないが、少人数授業など様々な対応ができる。
- 私立高校との関係も考慮した上で検討することが大切である。

(D)

- 少子化に対して、高校の数を今までどおり維持するという、その発想自体理解できない。生徒が減って、今までと同じ先生の数を維持しようとするれば、先生の質は確実に落ちる。先生の質が落ちたら、生徒の質は落ち、教育の劣化になる。

(E)

- 私立高校との関係を抜きにした議論は考えられない。全県的に1倍を割っている学校が急激に増えた。普通高校も待ったなしの状況である。

| 第2回会議 | 日時：令和3年4月26日(月) 午前10時～12時 場所：サン・アルプス大町(大町市) |
|---|--|
| <p>1 開会 2 挨拶 3 新構成員紹介 4 会議事項</p> <p>(1) 資料説明</p> <ul style="list-style-type: none">・「第1期長野県高等学校再編計画まとめと課題の整理(中高一貫校・総合技術高校 増補版)」(抜粋)・再編・整備の進め方について <p>(2) 県内3校の総合技術高校の取組について</p> <ul style="list-style-type: none">・須坂創成高等学校 学校長 西澤国之 先生・佐久平総合技術高等学校 学校長 田中信明 先生・飯田OIDE長姫高等学校(学校長 松原 均 先生) 資料提供のみ <p>(3) 質疑応答 (4) 意見交換 (論点)「活力ある専門高校の学びについて」「この地域に、総合技術高校の学びは必要か」 (5) その他</p> <p>5 閉会</p> <p>【配布資料】</p> <ul style="list-style-type: none">・次第を表紙に綴じたもの(構成員名簿、開催要綱)・座席配置図・「第1期長野県高等学校再編計画まとめと課題の整理(中高一貫校・総合技術高校 増補版)」(抜粋)・第2章 再編・整備の進め方(「再編・整備計画【二次】(案)」の抜粋)・総合技術高校3校の資料(学校要覧、学校パンフレット、3つの方針、ランドデザイン 他) | |
| <p>【論点整理等】</p> <ul style="list-style-type: none">○総合技術高校3校の現状と課題を共有。<ul style="list-style-type: none">・総合技術高校の特徴は、カリキュラムの専門性と教科・学科横断的な学び、融合した学びが実現できる点にある。・総合技術高校では、地域コンソーシアムの設置を通じて地域や、地域産業との協働性を担保することで、柔軟で多様な進路選択を実現できる。○総合技術高校の設置に対して、この地区では未だ機が熟していないとの懸念や、既存の高校 | |

です。すでに総合技術高校におけるような学びが行われているため、現状維持すべきという意見が出されたが、総合技術高校は魅力的な仕組み、学びの場であるということは委員間で共有された。

- また、現状において定員を満たすことができていない点にどのように向き合っていくか考えていかななくてはならない、との意見もあった。
- 総合技術高校を設置する場合は、次のような点に関する条件整備等が必要となる。
 - ・通学区の問題の解消
 - ・中学校、保護者への情報提供
 - ・地域や県民の理解の促進 等
- この他、子どもたちを主とした当事者の気持ちに真摯に向き合い、丁寧にフォローアップしていくことが必要であること、10年後、20年後を見据えた責任ある意思決定が必要であることなどが指摘された。

須坂創成高等学校

須坂創成高等学校の概要

新たな学び「農・工・商」の3学科を備えた総合技術高校
～須坂から世界へ羽ばたく創成力～

| | | |
|---------------------|---|-------------------------------------|
| 農業科 120名 | <ul style="list-style-type: none"> 園芸農学科 食品科学科 環境造園科 | 学科連携と学科連携で より広い専門性を身につける |
| 創成工学科 40名 | <ul style="list-style-type: none"> 精密機械コース メカトロニクスコース | |
| 商業科 120名 | <ul style="list-style-type: none"> 会計マネジメントコース ITコース ビジネスアライニングコース | |

農業実践【必修2年次】
農業を産出高の特色を踏まえて学び、産業人としての基礎力を養う。

学科連携【必修2年次】
他学科の科目を学び、より広い専門性を身につける。

連携実践【選択3年次】
希望者は3年次に他学科の科目の選択が可能。

校長として感じる総合技術高校の必要性や魅力及び課題

- ・他学科の学びが深まり、大規模化した部活動が進展してきた。毎年インターハイへの出場が果たれ、総合技術高校の魅力は増している。遠隔実現が大学で切望されている。他学科の学習を通して自分の専門性を磨き、信州大学、新潟大学、新潟文科大学進学など、他学科の資格取得や体験により進路実現でも個性に立つことができていく。
- ・令和元年度はコロナ禍での部活動で地域活動に制限があったが、「須坂農業小学校への生徒協力」が、運動部は秋の新人戦では女子バレー部が北信地区で準優勝するなど、多くの部活動が県大会へ出場した。
- ・生徒は「子どもも探究心にあふれた存在」であり、視野を広げるような情報提供が必要である。特に「ホンモノ」への理解は、生徒の探究心を掻き立てるため、体験を大切にすることにより、様々な出会いを通して広がりと深まりが見られる。
- ・須坂創成高校に工業科を新設したことは、地元で学び優良企業が多くある地域の工業界の活性化につながる事例となっている。専門高校からの進学者は地元へ戻る割合も高い。また、農業科・商業科も専員に多くの生徒が企業の協力を得て、インターンシップに出かけている。地元や現場作業に触れる機会を高校生の年齢で体験できることは職業人の育成に必要である。
- ・これからも「地域とともにある学校」をめざして、地元関係者と共に未来を創る活動を通して、「自分自身や地域社会の未来を創る力を身につける」ため、「探検隊みらいチャレンジ2020」(第6次総合計画)ともタイアップし、アントレナートップ教育を進める。新しいビジネスを育てる「インキュベーション」でも企業との連携をいただき、成功する新規事業や起業の理解を深めてこれからの時代に合った教育を目指したい。
- ・今後は、さらに生徒に関わり、「総合技術高校で学んできて、どう思いましたか?」と、子どもに「学びの指図」の試行が令和3年度に始まっている。校長として、私の考えを職員に話している。また、本校の発展には学力の差があり、様々な生徒がいる。絶対評価しても、別途が進まず困っている生徒も必ずいる。様々な困難を抱えている生徒も多い。生徒の思いを伝える場を作りたい。生徒の学力確保ができる評価をもとに生徒を支援していきたい。

佐久平総合技術高等学校

新教育課程編成のねらい

『佐久平を創る人をつくる』を
実現するための探究学習の導入

地域の産業へ
普通科と専門を組み合わせたい探究
研究し伝える力を伸ばす

各地の産業から
専門科の職員のみならず
普通科の職員も協力する

卒業生の進路状況

| | |
|--|--|
| 進学60% | 就職40% |
| <進学者の内訳> 国立・公立には年間5名程度 ほとんどの生徒が私立に進学 農業系や工業系の 大学・専門学校に 行く生徒が多い | <就職者の内訳> 工業系の生徒は、 工業系の製造業に就く生徒が多い 農業系の生徒で 就職する生徒は少なく 製造業・サービス系の希望が多い |

統合後の生徒の変化及び地元の評価

<「変化」>
農業科と工業科の生徒の協力
部活動を通じての交流
ヤキ場に入学する工業科の生徒もいる

<「評価」>
町長賞
保育園や小学校との交流
企業との課題研究
文化祭

総合技術高校の必要性・魅力及び課題

| | | |
|---|--|--|
| <「必要性」> インダストリー4.0 ソサエティ5.0 産業構造の変化 「農業」教育も チャンス! | <「魅力」> 二進制(通う！ スベレージック)を 得意にできる 「ハイパースクール」 「新校」の出現 | <「課題」> 「魅力」= 課題 「望」= 心のゆ 「望」= 地域「環境」 |
|---|--|--|



(意見の概要)

(A)

○長野県の第二次高校再編整備の中で総合技術高校を目指すという大きな方向性が示されている。校舎など様々な課題があるが、この地域でどのような課題があるか論点を絞り、「安曇野エリア」として総合技術高校を目指すことを前提とした議論を進めていくべきだと考えている。

(B)

○今後、総合技術高校を考えていく際に、ロケーション（校舎）が2つに分かれるかどうかは重要な問題である。地域同士で折り合いがつかず分かれてしまうようなことがあってはならない。

(C)

- 3校の総合技術高校は面白みがあり、これからの時代に必要であると感じた。一方で、既存の価値観に捉われた高校選択では、総合技術高校の持つ価値が分からない。中学校のうちにこういう高校に進学したいと評価できる教育、指導が行われないと選ばれないのではないかと。
- 子どもたちは探究心あふれる存在である。元々、子どもたちが持っているものを親は邪魔しないで伸ばすことが大切であることを、PTAとしてもしっかりと受け止めたい。

(D)

- 県内の先行事例である3校（須坂創成・佐久平総合・飯田OIDE長姫）とも、有望性・多様性・将来性があり、日本の経済界、産業界の歩む道の一步先を表していて魅力を感じた。農業・工業・商業が融合していかなければならないが、融合だけではなく、そこをプロデュースする学びを強めてほしい。
- 安曇野には現在、農業・工業・商業と良い学びの場がある。将来は、良い形で融合してもらいたい。

(E)

- 「高校再編」というピンチをチャンスに変えるという視点から、総合技術高校は選択肢の一つである。色々な立場があることはわかるが、狭い範囲での利益代表・利益誘導ではなく、地域全体や子ども・保護者のニーズに応えるために何ができるのかを考えていくことが大事である。
- 20年、30年先を見通した時、責任を持てる方向性を出せるのかが迫られている。従来のかたちにとらわれず、高校再編によって地域の産業を新たに創り出すことのできる人材を育成できる高校となればよい。

(F)

- 「地域性」が重要である。地域の課題、企業の課題は統合したときに大きな（探究）課題となる。今回、旧 11 通学区と旧 12 通学区の通学区を超えた話し合いは大きな意義があり、課題解決につながるはずである。定員割れがこれだけ多い中で、子どもたちのために何ができるのか。地域企業の課題とともに、子どもを中心に据えてどのように総合技術高校をつくっていくかを考えてほしい。

(G)

- 農業高校は作物を作ればよいという時代ではない。子どもたちが将来どのような道に進んでいくにしても、様々な分野が融合した社会に出ていくことを考えれば、総合的（融合的）な学びは大前提である。普通科も変わっていかねばいけないが、ぜひ総合技術高校をつくってほしい。

(H)

- 農業に限らず、将来、経営者になるには簿記に関する勉強はしなければならない。総合技術高校ではそのようなメリットがあると感じた。

(I)

- 総合技術高校の魅力を十分理解ができた。農業では、作物をつくる立場でマーケティングを理解していないと、「作ったけれども売れない」状況に陥って地元の農家さんも困っている方が多い。総合技術高校を作っていく場合、学校の位置は通学の利便性を最優先にお考えいただきたい。

(J)

- 総合技術高校は、地域産業を担う人材を育成しており、県内、地域への就職率も高く地域にとって重要な存在であると感じた。
- 進路の選択肢が狭まることはあってはいけない。地域、同窓会の意見を加えながら十分に議論を進め、合意形成していくことが大切である。

(K)

- 地元には高校があってほしいという思いは皆同じであるが、今はその枠を超えて、その先を考えていかなければならない。総合技術高校は必ずや必要なことであり、その方向で進むべきものと考えている。

(L)

- 総合技術高校の教育効果がよく分かった。子どもたちが入学してからも色々な選択ができることは非常に良いことである。子どもたちに選ばれるような高校づくりを進めてほしい。

(M)

- 総合技術高校のよさや課題がよく理解できた。ただ、総合技術高校の捉え方は人によって差が大きい。我々が方向性を決めるのは大事だが、一般の人々にしっかり理解してもらうことを同時にやらないと、方向性は出たけれど地域では理解されないことになり、地域が一つになれないことも考えられる。まだまだ機は熟していないと考える。

(N)

- 総合技術高校の子どもの様子、地域とのつながりを聞き、多くのメリットがあると感じたが、統合していく難しさも感じた。
- 総合技術高校であるからこそ、地域とのつながり（産業面や地域の生活）が大事となる。地域の初等教育を充実させていくきっかけになる。
- 総合技術高校の魅力は大きく、方向性について異論はないが、学校をどこにつくるのかという議論は、今後、慎重に進めてほしい。高校が地域とつながることが重要であるということは、地域にとっても高校の存在が重要であるということである。大北地域が元気になるための高校づくりが進んでくことを期待している。

(O)

- 総合技術高校にかなり魅力を感じた。この地域で3校の良さを取り入れた形の総合技術高校ができればと感じた。

(P)

- 高等学校の志願状況等が大変な状況になっていることは共通に理解している。また、子どもが減ってくる状況の中でどうにかしていかなければならないことは当然のことである。
- 普通高校については松本広域として考えていくべきで、この地域の特性である私立高校との関係性を整理しないと前に進んでいかないと思っている。
- 安曇野市内2校の専門高校にヒアリングしたが、総合技術高校と同じ問題意識を持って同じことをやられていると私は思った。何故、総合技術高校を設置しなければならないのか整理ができておらず、現段階で私の思いはそこまでは行っていない。

| | |
|---|--|
| 第3回会議 | 日時：令和3年5月14日(月) 午後2時～4時 場所：サン・アルプス大町（大町市） |
| 1 開会 2 挨拶 3 会議事項 (1) 報告(案)について (2) その他 4 閉会 【配布資料】 <ul style="list-style-type: none">・次第を表紙に綴じたもの（次第、事前に寄せられたご意見）・座席配置図・報告(案) | |
| 【まとめ】 「旧第11通学区高等学校教育懇話会」及び「大北地域における高等学校の将来を考える協議会」への報告内容を審議、決定。 | |

報 告 [まとめ]

「安曇野・大北地域の高等学校を考える合同部会（以下、合同部会）」は、“一定の結論を出すものではない”という前提で開催されたが、少子化の加速や定員割れの状況という現実から目をそらしてはならず、合同部会の場でも次世代に対して責任ある議論を積極的に行うべきであるとの意見もあった。合同部会では、次のような議論が行われた。

第1回目の合同部会では、県教育委員会事務局から、安曇野・大北地区（以下、本地区）における少子化の状況説明、これからの産業教育に求められる専門分野の融合・協働の必要性の確認、総合技術高校の説明等がなされた。

次いで、第2回目の合同部会では、県教育委員会事務局から令和3年3月公表の「第1期長野県高等学校再編計画まとめと課題の整理（中高一貫校・総合技術高校 増補版）」では、総合技術高校は「産業構造の変化や技術革新に柔軟に対応することができる有効な選択肢であるため、今後も配置を推進する。」と記載されているとの説明がなされた。また、県内の総合技術高校3校（①須坂創成高等学校、②佐久平総合技術高等学校、③飯田O I D E長姫高等学校）について各学校から成果と課題が示され、これからの時代の産業教育における総合技術高校の優位性ととも、高い専門性を担保しながら地域に根差し、地域と連携した探究学習等を実践していること、高等教育機関への進学者が増えていること、地域の評価や期待が高いこと等の説明がなされた。これらの説明を踏まえ、**本地区における今後の少子化の状況や社会の変化に対応した専門教育の維持・充実を図るためには、総合技術高校の設置に向けた具体的な条件整備のあり方を議論していくべきであるという趣旨の意見が大勢を占めた。**

なお、少子化の状況を鑑みてスピード感を持って一刻も早く進めていくべきである、本地区の専門高校3校はすでに地域連携や高い専門性を追求する学びが展開できているため総合技術高校を新たに設置する必要はない、機が熟していない、地域の枠を越えて安曇野エリアを一体として捉えるべきである、先行事例が抱える課題を踏まえて2キャンパスにしてはならない、私立高校との関係を考慮した議論を展開すべきである、都市部存立普通校に対する改革も不可避である、子どもたちを主とした当事者の気持ちに真摯に向き合い丁寧なフォローアップをしていくべきである、10年後・20年後を見据えた責任ある意思決定が必要である、などの重要な意見が出たことも申し添えておく。

今後の論点としては、①総合技術高校を設置する場合に生じる様々な課題（通学区問題、情報提供など）に対する方策を具体的に検討すべきこと、②子どもや保護者に対する積極的な情報提供を行い、中学生や保護者に選ばれる高校となるための方策を考えること、③本地区の専門高校を統合し総合技術高校を設置した場合には高校がなくなる地域が出てくることが想定されるため、地域住民の理解を得るための方策を検討すべきこと、④旧第11通学区高等学校教育懇話会における住民説明会、研究部会及び合同部会で提起された多面的・多角的な論点に真摯に対応しながら進めていくべきであること等が挙げられた。

旧第11通学区の「旧第11通学区高等学校教育懇話会」、旧第12通学区の「大北地域における高等学校の将来を考える協議会」では、合同部会の本報告を踏まえた議事運営を期待する。